

E エッセイ
ssay.**日韓友好の架け橋**豊橋日韓親善協会
会長 **福井康雄**

豊橋日韓親善協会の設立は、昭和52年6月8日で、以後34年経過して今日に至っています。30余年の経緯は4つの段階に区別されるといえます。

その第1期は市会議員の有志の方々を中心とした韓国訪問旅行を契機として結成されました。発起人代表を稲田益児氏として在日居留民団豊橋支部と趣意書を交換し、相互の理解と協力によって発足しました。

設立記念総会はグランドホテルで開催され、日韓双方から関係者200余名が列席し、役員を選出・会則の審議、事業計画の審議を経て正式にスタートの途につきました。以後、毎年韓国親善訪問団が結成され、友好親善に努めました。昭和58年第7回訪問団(72名)を最高とし、毎年60名前後の方々が見学訪問に参加されました。



協会の旅行の様子

平成6年第14回訪問団は参加人数が減少したとはいうものの22名の方々が見学訪問され、友好親善に対する情熱の程が伺えます。組織全体にエネルギーが満ち、熱意があり、成員の年齢も若く、友好親善に対する覇気が伝わってきます。

第2期は、昭和59年ソウル特別市江南区韓日親善協会との姉妹結縁締結と晋州市教育委員会との教育交流の開始が挙げられます。これらの交流は、民間レベルでの親善交流をより密度の濃いものとししました。

ボーイスカウトの合同キャンプ、日韓親善サッカー大会、洞窟協会大会、教育視察団の相互交流、中学生代表の韓国訪問とホームステイ、また、答礼訪問として晋州市中学生代表が見学し、小学生から大学生まで幅

広い交流は大人だけでなく次代を担う青少年に友好の輪が広がりました。

第3期は韓国の産業経済の発展と昭和63年ソウルオリンピックの開催が契機となりました。渡航自由化がもたらした相互の訪問がより交流を発展させました。

日本国内では、韓国映画が人気を博し「韓流ブーム」を巻き起こしました。韓国語の学習熱も高まり、韓国への観光旅行が急増したのもこの時期からであります。

その後、当協会としては、韓国への理解を深めるためと会員相互の資質向上のため、「映画会」「文化講座」「講演会」「展覧会」「物産展」「料理教室」「韓国語講座」「会報の発行」「懇親旅行」等積極的に取り組んできました。また、外郭団体への協賛・後援なども行ってきました。

浮ついた流行は、時間の経過の中で冷めるものです。当協会では時流に流されない地道な取り組みに努めてきました。この期の特徴は研修に重点をおいた取り組みが挙げられます。

第4期は現在の在り方だと思います。国際交流の原点に立ち戻り、ブームに浮き立つことなく、足元を見つめた交流の在り方を求める活動が展開されております。市内在住の在日民団の人々との交流と理解をより深めるための取り組みがなされています。

当協会が設立されて34年が経過し、組織も人も時間の経過の中で老いることは避けられません。組織の立ち上げの苦勞もさることながら、組織の継続と維持する苦勞も大変なものがあります。会員の高齢化、会員の減少傾向、運営のマンネリ化、当初の情熱の稀薄化、会員の意識変化、新規加入会員の減少…加えて政治情勢の変化などが挙げられます。

経年変化は、避けることが出来ないものではありますが、現況を放置傍観することはできません。国際交流の大切さは論を持たないことであり、その必要性はますますニーズを高めております。

先人の想いを汲み取りながら、組織をより充実し、時流の変化に対応しながら発展させることが課せられた責務であると考え、努力を傾注いたしております。